

ほっかいどう企業の森林づくり ステージⅡ 「JTの森積丹」



北海道水産林務部が推奨する「ほっかいどう企業の森林づくり」は、人手不足などで手入れが行き届かない森林に対し、環境保全や社会貢献に関心のある企業や団体等と森林所有者が森林整備活動に関する協定を結び、事業を行う取り組みです。

当町では、平成22年度に町有林約350haを対象に日本たばこ産業株式会社（以下、「JT」と）との協定を締結し「JTの森積丹」が誕生しました。

現在、令和3～7年度までの第2期協定の3つのテーマに沿った活動を進めています。
今回は、令和6年度の取り組みの状況について紹介します。

森林利活用による地域振興

町内の小学校児童を対象に、森・川・海のつながりで形成される積丹町の豊かな自然環境への理解を深める体験学習を行っています。

動植物の専門家を講師に招き、計4回、延べ17時間の取り組みでは、森・川・海に生息する生き物を観察・スケッチなどを通して生態について教わり、学んだ知識を基に「生き物のつながり図鑑」を作成。最終回では、学んだ内容をまとめた発表会が行われました。



▲令和元（2019）年JTの森積丹・生態調査業務で作成した「JTの森積丹 いきものこぼれ話かるた」を使って、楽しく遊びながら学習 =第1回：8月29日・美国小学校=



▲小泊海岸で貝殻や植物を観察する野外学習 =第3回：9月4日・小泊海岸=

「森つなぐ日」開催

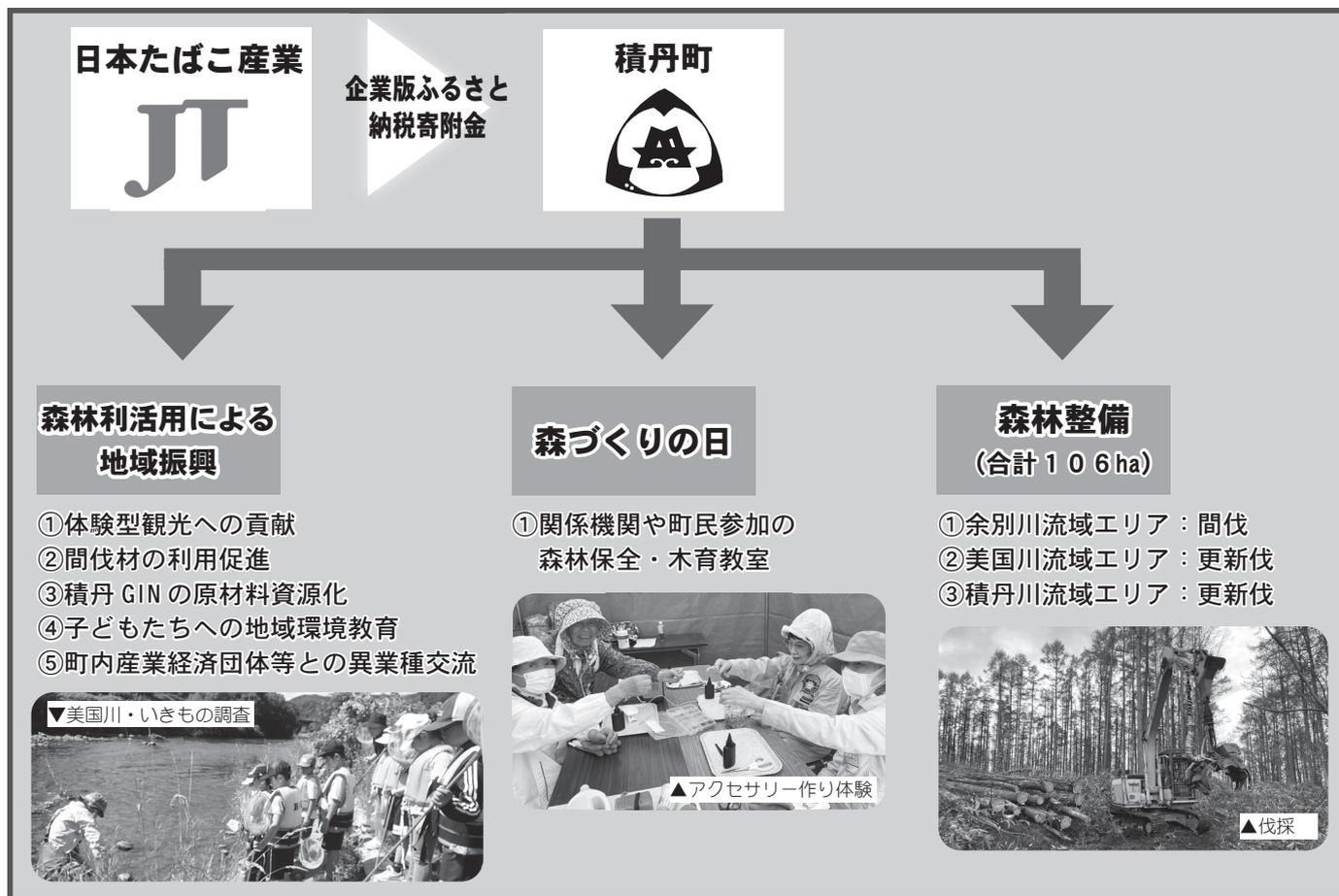
町民の皆さんの中にも参加いただいた方がいると思います。JTの森積丹を会場に、JT及び関連企業の社員とその家族のほか、国・道の林業関係職員、町民などが参加して森林保全活動等を行う取り組みです。

令和6年5月に開催された春のイベントには、177名が参加。余別川流域エリアで、森・川・海のつながりを学ぶ野外学習のほか、森の中を走行する森

～ 海を育む水源の森に / ほっかいどう企業の森林づくり ～

第2期【JTの森積丹】森林づくり協定の概要

＝ 面積：約350ha / 期間：令和3年4月1日～令和8年3月31日 ＝



平成27年度「森づくりの日」に植樹したトドマツ(6.57ha)の成長を阻害する雑草木の刈払いを実施。 ※ 水源涵養機能や山地災害防止機能など森林の公益的機能の維持増進を目的に、積丹川流域エリア(婦美一地区)で昭和32年に植栽し、公益的機能が低下したカラマツ林(林齢67年・約10ha)について、伐採と

「森林整備」の取り組み



▲ eバイク体験する参加者 = 5月25日・JTの森積丹＝

林アクティビティ「eバイク体験」や「巣箱づくり体験」などの森林アクティビティを行いました。

※ 水源涵養機能
森林の土壌が降水を貯蓄し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水の緩和とともに、川の流量を安定させる機能を持ちます。
また、雨水が森林土壌を通過することで水質の浄化と同時に養分を含み、山から川・海へ供給される自然の働きを「水源涵養機能」といいます。
この供給された養分が、海洋生態系の豊かさや漁業資源の形成に大きく寄与しています。そのため、漁業の町・積丹町にとっては、森林整備や保全活動を進めることは重要であり、欠かせません。

販売を一括で行う「立木販売」の公募を行い、462万円で売却しました。
伐採跡地は、今年雪解け以降に植栽準備のための地拵え作業を行った後、アカエゾマツの苗木を植栽する予定で、今秋の「森づくりの日」の参加者による植樹活動を予定しています。
引き続き、ほっかいどう企業の森林づくりのトップランナーにふさわしい「海を育む水源の森」を目指す取り組みを進めていきます。